

楽しく真剣！ サルーテ文化講座

「ふるさとの環境運動」 ジャーナリスト 土井淑平氏
(市民運動家)

2013/3/22

中国山地から日本海まで車で約30分。山林浴も海水浴もできる鳥取は、自然の宝庫です。しかしかつては、長尾鼻岬に計画された「青谷原発」や、湯梨浜町方面地区の「ウラン残土」問題がありました。土井淑平氏は市民運動家として、これらの問題をリードされましたが、福島原発の悲劇が解決しない現在、これらは大きな示唆となるでしょう。



長尾鼻の夏泊港 (岸本章氏作・岩絵具・80号)

■土井淑平氏のプロフィール



◎1941(昭和16)年、鳥取市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。元共同通信社記者。「地球規模で考え、地域で活動する」をモットーに、市民運動家兼フリーライターとして活躍。ウラン残土市民会議運営委員、さよなら島根原発ネットワーク会員。

◎1960年代は三重県のコンビナートによる大気汚染の「四日市公害」、1970年代は鹿児島県薩摩川内(せんだい)市の「川内原発」建設反対、鳥取市の「青谷原発」立地阻止に立ち上がる。1980年代から現在まで「人形峠ウラン鉱害」問題に取り組む。

◎著書。「原子カマフィア 原発利権に群がる人びと」「放射性廃棄物のアポリア」「原発と御用学者」「知の虚人・吉本隆明 戦後思想の総決算」。このほか、小出裕章との共著「人形峠ウラン鉱害裁判」「原発のないふるさとを」など。

◎全国各地で環境問題に関する講演も行う。「尾崎翠フォーラム」実行委員会代表、鳥取市文化賞受賞。(角秋)

